

## 「2022年度国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部2年 吉岡春樹

学習成果としては、大きく中国語能力を向上させることができた。本プログラム参加前は、京都大学の初秋外国語の授業で中国語を中級まで取得しただけであった。実践的なリスニング・スピーキング能力は乏しかった。しかし、本プログラムの3週間に及ぶ集中的な語学の授業と、現地での台湾人とのコミュニケーションを経て、実践的な力を身につけることができた。

具体的には、語学の授業では補語を中心に勉強した。ここで補語の種類による微妙なニュアンスの違いをすることができた。また、補語は日常生活で多用されており、すぐに復習することができた。授業全般で言うと、学生が話す機会が多く、積極的に参画することができた。ここでたくさん発声の練習ができ、実際のコミュニケーションに抵抗なく向かうことができた。

より実践的な練習として、飲食店での注文・学生との会話といった日常生活において中国語を使う機会があった。聞き取れなかった部分は後で友人に聞くなどして復習していった。飲食店や電車内で台湾人同士の会話を聞くのもいい練習になった。

また、語学力だけでなく、台湾人と交流する中で、自分から積極的に話しかける姿勢や、話をうまく続ける力といったコミュニケーション全体の能力の向上もあった。キャンパス内にいる学生に声をかけておすすめの台湾の観光地や近くの飲食店を教えてもらったり、一緒にご飯を食べに行ったりしたことは貴重な経験となった。友人を作ることで語学力向上のモチベーションになった。日本人が台湾で好感度が高いというのは実際本当のようで、日本人と言うと親切に対応してくれた。

このプログラムは長期留学の予行演習の位置づけでいた。結果として、長期留学は必ず自分を成長させると強く実感することができた。この3週間だけでも人間力の成長と語学力の向上が感じられた。これを1年続けると自分はより成長できると感じた。

一方で、語学力の向上と専門分野の研究を一緒にしてはいけないとも感じた。長期の交換留学は語学力の向上がメインではなく、学ぶことそのものに意義があるからいくものである。日本で学んだ方が専門分野の知見が深まるのであれば無理に渡航しなくても良いのだと実感した。

しかし、外国語力の向上を通して様々な人たちと交流できる喜びは大変大きなものだった。継続して語学力の向上に努めることはしようと思えるきっかけとなった。

今後の学習計画としては、学部生中にこのような語学プログラムの参加などで語学力の向上や異文化の体験を積極的に行い、大学院で海外留学を行いたいと思っている。理由は、大学院の方が学部よりも学ぶテーマが明確で、それにあつた海外の大学を選べると思ったのと、今から期間があるのでそれまでに語学力をより向上させられると思ったからである。このプログラムは長期留学の見方を改めてより実のある物にしたいと思える良い機会となった。